



67期卒業後初の同窓会 大挙200人参加 さあ社会人!!

令和2年1月4日に倉敷アイビースクエアで開催しました。卒業後初の同窓会で、当時学年主任でいらっしやった浅野先生(数学)をはじめ恩師十数人と、全国各地から同期約200人が参加しました。実に同期生の6割超とい

う驚異的な出席率で、集合写真も4回に分けて撮影しました。就職や大学院などへの進学など明るい報告が多数あり、会場は社会の一線に飛び出そうとする夢とパワーに溢れていました。

(田中遼 談)



医の知識 やたら詳しい 同窓会

10期女性有志ミニ同窓会

令和元年6月13日に岡山市内の日本料理店で6人が集いました。藤澤(旧姓山本)道子さんが声をかけてくれて、5年ぶりかな、再会しました。運動会の仮装行列の思い出話で盛り上がりました。参加者の荻野(旧姓細川)美子さんは美人で、明治皇后になったことをみんなよく覚えていました。健康や暮らしなど近況報告もして3時間があっという間でした。

|| 藤原(旧姓安原)久美子談 ||

運動会仮装 明治皇后から6人

コロナ対策で寄付

仁科喜佐男さん(5期) 母校へマスク3万枚

マスクを後輩の皆さんにーと、会社役員仁科喜佐男さん(5期)=写真⑥=が令和2年9月8日、青陵高校へ3万枚を寄付しました。

経営する商社が事前に中国から仕入れていたもので、ダンボール15箱に入れてトラックで搬入しました。マスクは不織布の使い捨てです。100万円相当になります。



校長室で贈呈式があり、仁科さんが「クラブは柔道部でした。自ら『陵歌』を作って寄贈したほどで、母校には愛着があります。コロナ禍はまだまだ続きそうなので何かお役に立ちたいと思ってね、喜んで受け取っていただき、うれしいです」と、寄贈の趣旨を説明すると、高槻信博校長が「生徒は体育以外はマスクをしているので適宜使わせていただきます。これで安心・安全な学校生活を維持することができ、大変ありがたいと思います」と、お礼を述べました。

伊澤正信さん(20期) 経営のクラブ(株) 倉敷市へ100万円

同年6月4日には、伊澤正信さん(20期)が経営するクラブ(株)が倉敷市に100万円を寄付しました。

伊澤さんが市役所を訪れ「市が創設したばかりのコロナ対策基金に役立てていただければ」と、伊東市長に目録を手渡し、謝辞を受けました。

令和元年 8月28日付
山陽新聞

倉敷青陵高校五陵会 = 昭和29年卒業 =

◇5月26日 倉敷アイビースクエア (倉敷市)
平成から令和へ、新時代最初の同窓会。集う45人の髪

白く腰曲がりつえ必要。かつて若き美少年美少女が今や84年の歴史の重みを表す姿となる。人生100年時代には一年一年生きるしかない。とりあえず来年5月最終日曜日に元気で再会しようと誓い散会した。(高橋勝)



倉敷青陵高校東京五陵会
= 昭和29年卒業 =
◇4月19、20日 防衛省市ヶ谷記念館 (東京都)
防衛省新庁舎群と歴史的建築物「市ヶ谷記念館」の陛下の休憩所・旧陸軍大臣室・極東軍事裁判法廷の大講堂等を見学。翌日、はとバスで国会議事堂・東京タワー・お台場・豊洲・築地等を遊覧し、来年の再会を誓って解散した。(高岩利彦)



令和元年 7月21日付

倉敷青陵高校東京同期会 = 昭和39年卒業 =

◇5月5日 ギャラリーランクスアイ (東京都)
毎年開催している息子のヴォーリス建築主体の個展。同級生が遠路はるばる来て盛り上げてくださいました。鑑賞後は近所のフルーツパーラーで、テレビ放映のあった地元や同級生の話題など近況報告会。調子に乗って全員でデッカイいちごケーキまで食べてしまいました。(井上博文)



〔15期〕 令和元年 8月3日付

年末`望年会`に集った「30期の日」のメンバー



毎年12月30日「30期の日」

約5年に1度開く全体同窓会とは別に、毎年12月30日の「30期の日」同窓会を平成30年の同日、倉敷の居酒屋で開きました。今回が13回目で、12人が出席しましたが、多い時は45人集まったこともあります。地元のほか県外からの帰省組も含めて年末`望年会`を兼ねて盛り上がりました。(日岡秀和 談)

74人が集い盛大に開かれた12期喜寿同期会



12期喜寿同期会

令和元年11月13日に倉敷アイビースクエアエメラルドホールで開きました。

中桐泰同期会会長の受勲祝賀を兼ね74人が参加しました。

出崎(秋山)紘子さんのオカリナ演奏&大塚(清水)美佐子

さんの手話ダンス、浅田(金谷)ひで子さんの紙芝居の披露がありました。その後、乾杯、懇親、校歌斉唱、エールと続き大いに盛り上がりました。

日帰りの人は、そのまま宴会場でお茶とクッキーで2次会を楽しみました。宿泊者25人は送迎バスで遥照山にある

中桐会長の受勲祝賀兼ね多彩に

「ザビューホテル瀬戸内ホテル」へ移動しました。ホテルは借り切りのレストランで2次会を楽しみました。

翌日は遥照山天文台、矢掛本陣石井家のガイド付き見学、昼食は古民家にある「花鳥風月」の「宿場御膳」を食べ、

矢掛駅から井原線、伯備線で帰りました。

宿泊組も日帰り組

も楽しく思い出深い喜寿の同期会となりました。

(石原寛之)

□…中桐泰さんは令和元年6月、高齢者叙勲で瑞宝単光章を受章しました。

倉敷青陵高校
26期生有志忘年会
◇12月15日 温羅厨房まんまや。倉敷店(倉敷市)
かれこれ15年になる恒例の忘年会を開くことができました。定年を機に木工作家に転身したり、家庭菜園にはまったり、遺曆をすぎた昭和50年卒の面々22人が旧交を温め、1年後に元気で再会することを誓いました。(河原宣哉)



令和2年4月9日付山陽新聞



平成31年4月22日付。藤原彰夫さん(18期、前列右から3人目)は倉敷野鳥の会会長

倉敷野鳥の会総会・新年会
◇1月12日 アパホテル倉敷駅前(倉敷市)
毎月1回の野鳥観察会は、倉敷市内の探鳥コース巡り、1泊して笠岡諸島を巡る旅、四国や奥大山への遠出などを行うことを総会で決定。新年会では、前会長が用意されたおとせをいたさながら、観察会の思い出、山野草や野生動物の話などがにぎやかに続きました。(藤原彰夫)

平成10年度文部省教員海外派遣岡山第331団同窓会



令和元年5月10日付。田中尚さんは元校長

◇2月2日 Ryoutei 奉還町本店(岡山市)
平成10年に県内の教員22人でデンマークの教育視察を行いました。帰国後も毎年同窓会を開催し、交流を続けています。今回で記念すべき20目となりました。11人が出席し、近況報告や情報交換を行いました。(田中尚)



青陵ゴルフ会昼食会

令和元年12月11日に倉敷国際ホテルで開きました。平成13年に発足以来、年4、5回ペースで開いた例会80回到達記念です。会員は50人ぐらいいて今回は3期から29期までの32人が出席しました。仁科喜佐男会長(5期)が軽く美声(歌)を発して、始球式をしました。最多10回の優勝を誇る大山名人の元「城代老」北村實さん(3期)が、「決してゴルフ三昧ではありません」と苦笑いながら、天才藤井七段やひふみんなど精通した将棋界の裏話を面白く披露、会は大いに盛り上がりました。事務局の「若い人に加わってほしい」との嘆きのひと声を聞き、一本締めでピシヤットとホールアウトしました。(編集室)

例会80回到達を記念

トッパ 十八会ゴルフ第100回記念大会

18期の十八(トッパ)会ゴルフを令和2年3月23日に倉敷カントリー倶楽部で開きました。年3～6回開いて今回100回の大台に到達しました。女性3人を含む23人が参加、三宅理三郎君が有終の美を飾りました。これを区切りに有志のミニコンペに切り替えます。歴代幹事さんご苦労さんでした。「一番うめえのは佐藤の章(二)ちゃんかのう」となっています。(岩田正晴 談)

大台に到達 今後はミニコンペに

り替えます。歴代幹事さんご苦労さんでした。「一番うめえのは佐藤の章(二)ちゃんかのう」となっています。(岩田正晴 談)



倉敷青陵高校16期生ゴルフコンペ
=昭和40年卒業=

◇9月18日 鷲羽ゴルフ倶楽部(倉敷市)
第28回倉敷青陵高校16期生ゴルフコンペを鷲羽ゴルフ倶楽部で開催しました。今回は、広島から松田君も参加。五十数年ぶりの再会で気持ちは高校時代に戻り、話も弾み楽しいラウンドになりました。(堀正實)



笑顔で勢ぞろいした十八会ゴルフのメンバー

元看護師 芳賀(旧姓村岡)貞女さん 倉女32期 宅

戦後75年、従軍看護師が書き残した詳細な手記が発見され令和2年8月、山陽新聞に3回にわたり連載され反響を呼びました。手記を残したのは倉敷高女32期の芳賀(旧姓村岡)貞女さんです。

岡山市に住む同居していた次女が、前年に亡くなった芳賀さんの遺品を整理中に見つけたもので、手記には「従軍回想記」とありました。

自分の経歴から召集、フィリピンでの従軍、帰国するまでの記録がA5判

トピックス



新聞で紹介された芳賀貞女さんの「従軍回想記」(記事中の顔写真が芳賀さん)

戦後75年、比「従軍回想記」発見

の紙にびっしり書き込まれていました。記事によりまずと。同高女を卒業、看護学校を1年繰り上げ卒業して昭和19年5月、日本赤十字社の救護班(岡山班)の一員としてフィリピン・ルソン島のマニラに派遣されました。20歳でした。

間もなく戦況が悪化、病院に次々運ば込まれる負傷者の治療に懸命に当たりました。米軍によるマニラ包囲網が狭まり、拠点を變えて北上、野戦病院で過酷な治療を余儀なくされました。手記には「生命が縮む思い」と記しています。

さらに奥地へ移動、自決を促す手りゅう弾が渡されました。マリアにもかかりました。同20年、終戦を聞いたのは9日後の8月24日でした。年末にやっと岡山へたどり着いたのです。

戦後、かつての仲間たちと十数回、ルソン島へ慰霊の旅をしたそうです。

死の淵まで追い詰められた若き従軍看護師の貴重な体験記です。戦後の平和は芳賀さんたちの、時代の要請にこたえた使命感のおかげです。芳賀さんのご冥福をお祈りします。